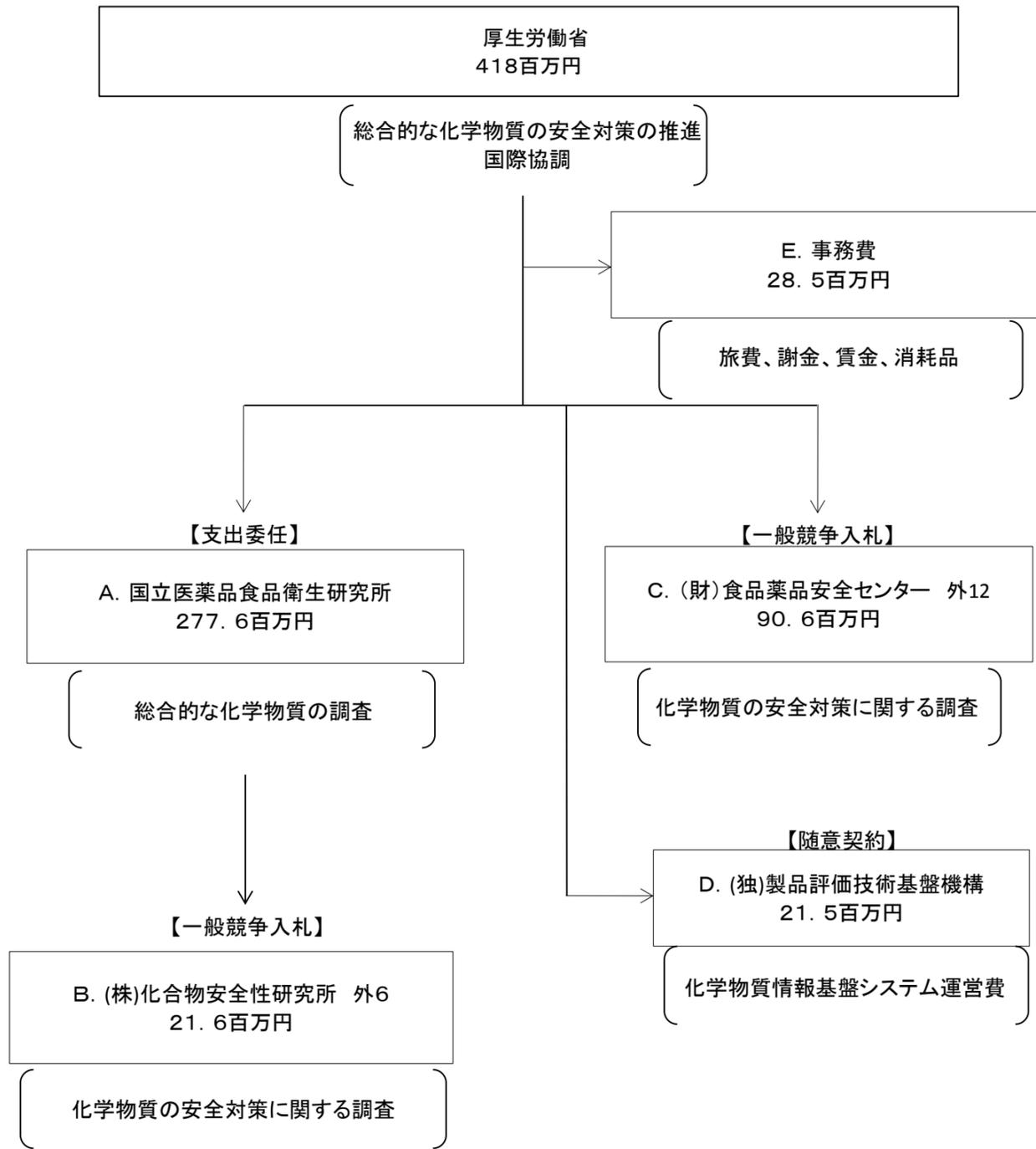


平成24年行政事業レビューシート (厚生労働省)

事業名	化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律施行費		担当部局庁	医薬食品局		作成責任者	
事業開始・終了(予定)年度	昭和49年度～		担当課室	審査管理課化学物質安全対策室		室長 長谷部 和久	
会計区分	一般会計		施策名	(IV-4-4) 国民生活を取り巻く化学物質による人の健康影響を防止する			
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-		関係する計画、通知等	-			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	○化学物質の適正な評価・管理を推進し、安全性を確保するため、規制等を適切に行うとともに、環境への排出量の把握等及び管理の改善を図る。 ○内分泌かく乱化学物質、ナノマテリアルなどの新素材についても、ヒトの健康への影響評価を行い、総合的な化学物質の安全対策を推進する。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	1. 新規化学物質等の審査、既存化学物質毒性試験の実施。 2. 電子申請システム及び3省(厚生労働省・経済産業省・環境省)共管情報基盤システムの管理。 3. PRTR法に基づき化学物質の排出量を所管する事業所のデータ受入及びシステム管理。 4. OECD試験ガイドラインに基づく内分泌かく乱化学物質実証試験の実施。 5. 海外の規制当局との化学物質に対する規制と我が国の規制との整合、リスク管理方策及び毒性試験評価基準等の国際協調。 6. 新素材のナノマテリアルについての国内使用実態等調査。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・執行額 (単位:百万円)		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求	
	予算の状況	当初予算	414	560	460	398	378
		補正予算		△ 108			
		繰越し等			△ 33	33	
		計	414	453	427	431	378
		執行額	383	367	418		
	執行率 (%)	93%	81%	98%			
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	21年度	22年度	23年度	目標値(毎年)
	化学物質の安全性点検の実施		成果実績 試験数	48	43	30	20
			達成度 %	240%	215%	-	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
	既存化学物質の安全性情報の公開 ※22年度は、搭載物質の情報量を拡充した。		活動実績 (当初見込み) 物質数	277	277	339	
				(277)	(300)	累計300	
単位当たりコスト	3,020,500円/試験数		算出根拠	執行額(90,615,000円)/30(安全性点検を実施した試験数)			
平成24・25年度予算内訳	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由			
	諸謝金	1.4	1.2	単価見直しによる減			
	職員旅費	4.8	4.8				
	委員等旅費	3.2	3.2				
	庁費	0.0	0.0				
	医薬品審査等業務庁費	41.0	36.8	評価事業における専門家の評価を6月から3月にしたことによる減			
	社会保障関係情報化業務庁費	6.0	4.8	機器保守料を4人月から2人月にしたことによる減			
	家庭用品等試験検査費	319.3	304.0	ナノマテリアル生産動態等調査費の見直しによる減			
	医薬品等試験調査委託費	22.7	22.7				
計	398	378					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・ 状況・ 予算の 状	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	化学物資の審査及び製造等の規制については、これを怠ると国民の健康を損なうおそれがあるため、優先度は高い。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	化学物資の審査及び製造等の規制については、国が実施すべき事業である。
	-	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	-
資金の 流れ、 費目・ 使途	△	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	1件、会計法第29条の3第4項の規定に基づき随意契約をしているが、その他は一般競争入札により競争性を確保している。また、国立医薬品食品衛生研究所は厚生労働省の施設等機関であり、医薬品の品質、安全性、有効性等について研究を行っている唯一の国立機関であり、支出先の選定は妥当である。
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	一般競争入札を実施することにより、コスト削減に努めている。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	-
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	会計法に基づき、適正かつ合理的に行われている。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	事業を実施する上で、必要な経費に限定されている。
活動実績、 成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	国立の機関と連携して、適切な活動を実施している。
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	達成率は高く、国際的な化学物質安全性点検にも貢献している。
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	活動実績は、その見込みに見合ったものになっている。
	-	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。 ※類似事業名とその所管部局・府省名	-
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	保健衛生上の見地から、十分に活用されている。
点検結果	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容については事業内容を適切に反映したものであり、支出先の選定についても適切である。 ・支出委任については今後もその必要性等を精査し、適正な額の支出を実施していくものとする。 		
予算監視・効率化チームの所見			
現状通り	<p>本事業は、化学物質による人の健康影響を防止するため環境への排出量の把握及び管理の改善等に必要な経費であり、執行状況等検証の上、引き続き適切な予算措置とすること。</p>		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
-	-		
補記(過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年行政事業レビュー	352	平成23年行政事業レビュー	320

※平成23年度実績を記入



資金の流れ
(資金の受け
取り先が何を
行っているか
について補足
する) (単
位: 百万円)

費目	A.国立医薬品食品衛生研究所		費目	E.(有)タケマエ	
	使 途	金 額 (百万円)		使 途	金 額 (百万円)
備品費	研究機器	124	消耗品	事務用品	3
雑役務費	(株)化合物安全性研究所 化学物質の安全対策に関する調査	58			
光熱水料	ガス、電気、水道使用料	57			
消耗品費	研究消耗品	31			
賃金	研究等補助	7			
計		278	計		3
B.(株)化合物安全性研究所			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
役務費	化学物質の安全対策に関する調査	14			
計		14	計		0
C.(財)食品薬品安全センター			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
役務費	化学物質の安全対策に関する調査	19			
計		19	計		0
D.(独)製品評価技術基盤機構			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
雑役務費	システム運用管理費	7			
借料	機器借料	6			
人件費	職員人件費	4			
管理費	管理費	3			
消費税	消費税	1			
通信費	通信費	1			
賃金	派遣職員人件費	1			
計		22	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の
 金額が支出されている者について
 記載する。費目と使途の双方
 で実情が分かるように記載)

支出先上位10者リスト

A.国立医薬品食品衛生研究所

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	国立医薬品食品衛生研究所	化学物質の安全性評価におけるヒト由来細胞を用いた試験法ガイドライン策定のための実験的検討等	277.6		

B.(株)化合物安全性研究所 外6

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)化合物安全性研究所	内分泌かく乱化学物質スクリーニング試験(子宮肥大試験)	10.7	3	59.8%
		内分泌かく乱化学物質スクリーニング試験(ハーシュバーガー試験)	2.9	4	57.2%
2	三菱化学メディエンス(株)	難分解性・高蓄積性物質調査・国際文書化	1.9	3	49.8%
		難分解性・高蓄積性物質調査・国際文書化	1.8	3	37.5%
		難分解性・高蓄積性物質調査・国際文書化	1	3	34.6%
		難分解性・高蓄積性物質調査・国際文書化	0.8	4	44.8%
3	(財)食品農薬医薬品安全性評価センター	コメットアッセイバリデーションで得られる病理標本の評価	2.5	3	88.9%

C.財団法人食品薬品安全センター 外12

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)ボゾリサーチセンター	既存化学物質安全性点検に係る毒性調査業務	8.7	3	66.6%
		既存化学物質安全性点検に係る毒性調査業務	8.4	3	64.0%
		既存化学物質安全性点検に係る毒性調査業務	5.5	6	77.1%
		既存化学物質安全性点検に係る毒性調査業務	4.0	6	95.9%
		既存化学物質安全性点検に係る毒性調査業務	3.9	5	94.0%
2	(財)食品薬品安全センター	既存化学物質安全性点検に係る毒性調査業務	9.3	4	70.9%
		既存化学物質安全性点検に係る毒性調査業務	9.3	4	70.9%
3	(株)化合物安全性研究所	既存化学物質安全性点検に係る毒性調査業務	8.9	2	75.3%
		既存化学物質安全性点検に係る毒性調査業務	8.2	5	60.5%
4	(一般)化学物質評価研究機構	化学物質リスク評価対策調査業務	6.4	7	41.8%
		化学物質リスク評価対策調査業務	5.2	7	73.4%
5	(株)三菱化学テクノロジーサーチ	化学物質リスク評価対策調査業務	7.1	4	12.2%
6	JFEテクノロジーサーチ(株)	ナノマテリアル安全対策調査業務	5.7	5	63.4%

D.(独)製品評価技術基盤機構

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(独)製品評価技術基盤機構	化学物質情報基盤システム運営費	21.5	随意契約	

E事務費

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(有)タケマエ	事務用品	2.6		
2	郵政事業(株)	郵便料	2.2		
3	委員A	外国旅費	1.6		
4	委員B	外国旅費	0.8		
5	(株)システム情報センター	PRTR法対象物質の集計	0.7		
6	(独)製品評価技術基盤機構	PRTR法対象物質届出内容確認	0.7		